

NetIQ PlateSpin Forge 11.2 リリース ノート

2015年10月



PlateSpin Forge 11.2 には、新機能が追加され、さらに使いやすくなっており、以前にあった問題もいくつか解決されています。Forge のこのバージョンはソフトウェアのみのリリースです。また、重要なパフォーマンスと信頼性の問題も解決されています。

これらの改善の多くは、お客様から直接ご提案いただいたものです。皆様の貴重なお時間とご意見に感謝いたします。弊社の製品が皆様のご期待に添えるよう、引き続きお力添えを賜りたく存じます。フィードバックがございましたら、弊社のコミュニティサイト [NetIQ フォーラムの NetIQ PlateSpin Forge](#) (<https://forums.netiq.com/forumdisplay.php?56-Platespin-Forge>) に関するトピックまでお寄せください。こちらのサイトでは、製品通知、ブログ、および製品ユーザグループのサービスも提供しています。

この製品のドキュメントは、NetIQ Web サイトで HTML および PDF の 2 つの形式で提供されています。マニュアルを改善するためのご提案がございましたら、[PlateSpin Forge 11.2 マニュアルの Web サイト](#)に掲載されている本マニュアル (<http://www.netiq.com/documentation/platespin-forge-11-2>) の HTML 版で、各ページの下にある **[comment on this topic]** をクリックしてください。この製品を購入およびダウンロードする方法については、[PlateSpin Forge](#) (<https://www.netiq.com/products/forge/>) の Web サイトを参照してください。

PlateSpin Forge の以前のリリースに付属していたリリースノートについては、[PlateSpin Forge 11.2 マニュアル](#)の Web サイトにアクセスし、目次の下にある *以前のリリース* に移動してください。

- ◆ [1 ページのセクション 1 「新機能」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 2 「アップグレードに関する問題」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 3 「既知の問題」](#)
- ◆ [9 ページのセクション 4 「連絡先情報」](#)
- ◆ [10 ページのセクション 5 「保証と著作権」](#)

1 新機能

以下に、このバージョンで提供されている主な機能と、このリリースで解決されている問題の概要を示します。

- ◆ [2 ページのセクション 1.1 「Hardware \(ハードウェア\)」](#)
- ◆ [2 ページのセクション 1.2 「サポートされる構成」](#)
- ◆ [3 ページのセクション 1.3 「セキュリティ拡張機能」](#)
- ◆ [3 ページのセクション 1.4 「ソフトウェアの機能と拡張」](#)
- ◆ [3 ページのセクション 1.5 「ソフトウェアの修正」](#)

1.1 Hardware (ハードウェア)

PlateSpin Forge 11.2 の特徴は、Dell PowerEdge R730xd をベースにした新しいハードウェアアプライアンスです。各ハードウェアモデルの機能：

- ◆ デュアル 8 コア CPU
- ◆ 128GB の RAM
- ◆ ワークロードレプリケーションのために使用できる RAID 保護された 20TB 超のストレージ

1.2 サポートされる構成

PlateSpin Forge 11.2 には、次の設定の拡張サポートが含まれています。

- ◆ [2 ページのセクション 1.2.1 「ワークロード」](#)
- ◆ [2 ページのセクション 1.2.2 「VM コンテナ」](#)
- ◆ [2 ページのセクション 1.2.3 「Blkwatch ドライバ」](#)

1.2.1 ワークロード

PlateSpin Forge 11.2 は、ワークロードとして次のオペレーティングシステムのサポートを追加します。

- ◆ Microsoft Windows Server 2012 R2 フェールオーバークラスタ
- ◆ Red Hat Enterprise Linux 6.6
- ◆ CentOS 4、5、6、および 7

PlateSpin Forge 11.2 でサポートされるワークロード環境設定については、『[PlateSpin Forge ユーザガイド「』の」](#) (https://www.netiq.com/documentation/platespin-forge-11-2/forge_user/data/supported-configurations.html) Supported Configurations を参照してください。

1.2.2 VM コンテナ

PlateSpin Forge 11.2 は、VM コンテナとして VMware ESXi 6.0 のサポートを追加します。

PlateSpin Forge 11.2 でサポートされる VM コンテナの詳細については、『[PlateSpin Forge ユーザガイド](#)』の「[サポートされる VM コンテナ](#)」 (https://www.netiq.com/documentation/platespin-forge-11-2/forge_user/data/supported-configurations.html#supported-vm-containers) を参照してください。

1.2.3 Blkwatch ドライバ

PlateSpin Forge 11.2 は、次の Linux ディストリビューション用の blkwatch ドライバのサポートを追加します。

- ◆ Red Hat Enterprise Linux 6.6

PlateSpin Forge がどの非デバッグ Linux ディストリビューションに対応する blkwatch ドライバを備えているかについては、『[PlateSpin Forge ユーザガイド](#)』の「[PlateSpin Forge によってサポートされている Linux ディストリビューション](#)」 (https://www.netiq.com/documentation/platespin-forge-11-2/forge_user/data/apx1-linux-distributions.html) を参照してください。

1.3 セキュリティ拡張機能

PlateSpin Forge 11.2 で提供されるセキュリティ拡張機能を次に示します。

- ◆ **Windows クラスタ検出**：仮想クラスタ名と管理共有を使用する代わりに、Windows クラスタをアクティブノードに基づいて検出する機能。
- ◆ **管理者ユーザのパスワード**：Forge 管理 VM で、ネイティブの Windows 管理ツールを使用して管理者ユーザのパスワードを設定する機能。

1.4 ソフトウェアの機能と拡張

PlateSpin Forge 11.2 は、ユーザビリティと管理の向上を図るための、次の主要機能と拡張機能を備えています。

- ◆ **仮想コアとソケット**：VMware ESXi 5.1、5.5、または 6.0 を使用する VM コンテナ上のレプリケーションワークロードの CPU に対して、コア数およびソケットあたりのコア数を定義する機能。
- ◆ **Windows クラスタの検出**：アクティブノードに基づいて Windows クラスタを検出し、それらをクラスタワークロードとして追加する機能。ご使用の PlateSpin 環境に対して Windows クラスタの検出を有効または無効にできます。

1.5 ソフトウェアの修正

PlateSpin Forge 11.2 では、次のソフトウェアの問題が解決されています。

- ◆ **942967 – 最初の完全レプリケーション時、ターゲット VM が bootfx.iso でブートするものの、PlateSpin Server のアドレスを待っている状態になる。**ワークロードに対する [Cores per Socket (ソケットあたりのコア数)] 設定の一部で、フロッピーイメージが正常にロードされませんでした。つまり、ターゲット VM が正しく設定されていません。今回のリリースでは、この問題が解決されています。
- ◆ **940798 – ブロックベースの転送の除外ファイルリストが機能していない。**[Block Based Volume Server Exclude and Include (ブロックベースボリュームサーバの除外と組み込み)] リストで、デフォルトのファイルのほかに新しいファイルを受け付けることができます。新しいリストを追加するには、Platespin Server 環境設定で次のパラメータを使用します。

BlockBasedTransferExcludeFileList

BlockBasedTransferIncludeFileList

- ◆ **940228 – ターゲットがブートせず、エラー「Volume with serial number 00000000 does not exist among these known serial numbers (シリアル番号 00000000 のボリュームが既知の一連のシリアル番号の中に存在しません)」が発生する。**tmp または temp フォルダ環境変数がレプリケーション契約に含まれないドライブにマップされている場合、例外が発生していました。この問題は解決されています。
- ◆ **932222 – ターゲットをパーティション化する際に、2TB MBR ドライブが検証されない。**以前は、2 TB ドライブ上の MBR パーティションテーブルを使用するワークロードは、ESXi 5.5 VM コンテナ上のターゲットワークロードで GPT パーティションテーブルを使用するように自動変換されていたため、不一致による検証の失敗が発生しました。この問題は解決されています。
- ◆ **931518 – ワークロードの「準備して保存」を実行する際に、Protect Web UI で予期せぬエラーが発生する。**この問題は解決されています。

- ◆ **929770** – 11.0 から 11.1 へのアップグレード後も、ソースの OFX 接続が確立されず、「無効な IP アドレスが指定された」状態になる。複数の NIC が搭載された Windows Server 2003 R2 の 32 ビットクラスワークロードで、PlateSpin がサーバとネットワークを検証できず、OFX コントローラがハートビートチェックの実行を開始できませんでした。以前のリリースでは、PlateSpin は、任意のソース NIC を使用してゲートウェイの IP アドレスと DHCP サーバの IP アドレスを取得していました。しかし、バージョン 11.1 では、OFX コントローラは、特定の NIC を使用して IP アドレスを取得します。そのため、IP アドレスを指定していないと、Windows Server 2003 R2 の 32 ビットでは、IP アドレスのデフォルト値が提供されず、アクションに失敗します。この問題は解決されています。
- ◆ **927013** – CPU 数が間違っている。以前は、各ソケットに 1 つのコアが存在するという前提で、検出時のソケット数は CPU と同数として処理されていました。このリリースでは、VMware ESXi 5.1、5.5、または 6.0 を使用する VM コンテナ上のレプリケーションワークロードの CPU に対して、コア数およびソケットあたりのコア数を定義する機能を提供します。
- ◆ **926354** – 最初のレプリケーション時にエラー [No Valid snapshot transfer method provider (有効なスナップショット転送方式プロバイダがありません)] が発生する。ファイルベースのレプリケーションとブロックベースのレプリケーションでは、Microsoft VSS (ボリュームシャドウコピーサービス) を使用して、PlateSpin が凍結されたファイルシステムからデータをコピーできるようにしています。以前は、PlateSpin は、VSS シャドウプロバイダの有無を最初のレプリケーション時に確認していました。今回のリリースから、VSS シャドウプロバイダの有無をワークロードの検出時に確認するようになりました。
- ◆ **926291** – ブロックベース転送ドライバが原因でソースサーバが起動に失敗する。以前は、ブロックベース転送ドライバは、古い利用できないボリュームシャドウコピーを検出しており、これが、ソースサーバが起動に失敗する問題の原因になっていました。今回のリリースから、ドライバはファイルサーバのシャドウコピーを無視するようになりました。
- ◆ **922954** – 最初のレプリケーション時にエラー [Cannot be negative (負の値は指定できません)] が発生する。以前は、代替データストリーム名に \$(ドル記号) が含まれる代替データストリーム拡張属性をファイルで使用していると、レプリケーションのファイルベース転送時に例外が発生していました。今回のリリースから、ファイルベース転送でこのユースケースを処理できるようになりました。
- ◆ **921103** – DLL ZLibWrapper をロードできない。以前は、環境の dll 検索パスにカレントディレクトリが含まれていない場合、ZLibWrapper.dll に対して SetDllDirectory を使用して、DLL ロードパスにカレントディレクトリを追加する必要がありました。この問題を解決するため、圧縮レプリケーションを実行する場合、ZLibWrapper.dll ファイルの検索時にカレントディレクトリを確認するようになりました。
- ◆ **918295** – 4.9T のボリュームでパーティションの作成に失敗する。以前は、PlateSpin は、MBR タイプのパーティションのみを検出していました。今回のリリースから、WMI の検出時に MBR および GPT (GUID パーティションテーブル) のディスクパーティションスキームを検出して処理するようになりました。
- ◆ **912149** – データ転送ステップで、Windows Server 2003 の「[80004005] システムエラーコード /HRESULT: [80004005]」が発生する。以前は、PlateSpin が、無効な MFT インデックスデータを処理して無効なインデックスのレコードを読み込んでおり、これが原因でレプリケーションが失敗していました。今回のリリースから、無効なインデックスデータはフィルタして除外されるようになったため、無効なインデックスのレコードが読み込まれなくなりました。
- ◆ **906633** – ダッシュボードが 60 個を超えるワークロードをサポートする必要がある。以前は、PlateSpin Server ダッシュボードの [Workload Summary (ワークロードサマリ)] に、60 個のドットアイコンが表示されていました。今回のリリースから、ワークロードの状態を示すドット

トアイコンの最大数が、PlateSpin Server にインストールされているワークロードライセンスの数に一致するようになりました。無制限ライセンスの場合、サマリには 96 個のドットアイコンが表示されます。

- ◆ **886325 – 静的 IP アドレスが割り当てられている Windows Server 2012 ワークロードのネットワーク設定 UI に、DHCP 有効と表示されるべきではない。** ソースワークロードとターゲットワークロードに静的 IP ネットワークを設定していても、Windows のネットワークアダプタのプロパティにはネットワーク設定で DHCP が有効になっているとレポートされていました。Powershell コマンドでは、DHCP が無効であると表示されていました。ネットワーク機能は失われていません。今回のリリースでは、この問題が解決されています。
- ◆ **865570 – Windows Server 2012 R2 UEFI ワークロードのファイルベースの転送が失敗する。** Windows 6.2 以降のカーネルバージョンの X2P ファイルベースの転送が、ファイルステージの送信および受信中に失敗します。

回避策: この X2P シナリオでファイル転送を強制的に機能させるには、ファームウェア VT-d、VT-s、Execute Disable Bit の CPU 詳細フラグを無効にする必要があります。詳細については、[ナレッジベースの記事 7014698 \(http://www.novell.com/support/kb/doc.php?id=7014698\)](http://www.novell.com/support/kb/doc.php?id=7014698) を参照してください。

2 アップグレードに関する問題

PlateSpin Forge Server を PlateSpin Forge 11.2 アプライアンスバージョン 3 にアップグレードするには、ホットフィックスまたはパッチが適用済みかどうかに関係なく、次の製品のインストール環境が存在している必要があります。

- ◆ PlateSpin Forge 11.1 アプライアンス 3
- ◆ PlateSpin Forge 11.0 アプライアンス 3

『[PlateSpin Forge アップグレードガイド](#)』の「[Upgrading to Forge 11.2 Appliance Version 3](#)」を参照してください。

注: PlateSpin Forge 4 アプライアンスバージョン 2 以前を現在使用している場合は、PlateSpin Forge 11.2 アプライアンスバージョン 3 にアップグレードする前に、システムを PlateSpin Forge 11.0 アプライアンスバージョン 3 にアップグレードしてください。『[PlateSpin Forge 11.0 アップグレードガイド](https://www.netiq.com/documentation/platespin-forge-11/forge_upgrade/)』を参照してください。

現在使用している Forge のバージョンによっては、増分アップグレードパスに従う必要があります。『[PlateSpin Forge 11.0 アップグレードガイド「1」](https://www.netiq.com/documentation/platespin-forge-11/forge_upgrade/data/b1agcbcd.html)』を参照して、必要に応じてそのガイドのアップグレード手順に従ってください。

3 既知の問題

NetIQ Corporation は、弊社の製品が企業のソフトウェアの必要にかなった質の高いソリューションを提供できるよう努めています。次の問題は、現在調査中です。いずれかの問題についてさらに支援が必要な場合は、[テクニカルサポート \(http://www.netiq.com/support\)](http://www.netiq.com/support) に連絡してください。

- ◆ **Linux ワークロード向けにソフトウェア RAID をサポートしない。** PlateSpin Forge は、ソフトウェア RAID のボリュームの Linux ワークロードをサポートしていません。

- ◆ **949765 – Prepare for Sync が、ターゲット VM のソケットとコアの設定を間違えて変更します。**ある条件下で、Prepare for Sync は、ターゲット VM に設定されている CPU の合計数を遵守しますが、コアとソケットの設定を間違えて変更する可能性があります。ソケットあたりのコア数が 1 に設定され、ソケット数が CPU の合計数に設定されます。

この問題は、サーバ同期コントラクトを作成するタスクと再保護時にターゲットを準備するタスクで確認されています。影響を受けるのは、ESXi 5 以上の VM コンテナのターゲット VM のみであり、この場合はソケット数とソケットあたりのコア数は VMware により設定されます。さらに、サーバ同期コントラクトには、コアとソケットの設定は表示されません。

たとえば、ESXi 5.5 VM コンテナでターゲット VM の CPU 設定でソケット数が 6、ソケットあたりのコア数が 3 に設定されている場合、Prepare for Sync は間違えて CPU 設定のソケット数を 18、ソケットあたりのコア数を 1 に設定します。

回避策：現時点で解決策はありません。

- ◆ **949579 – 物理へのフェールバックは、ソースとターゲットのブートモードが異なる (UEFI <-> BIOS) 場合、失敗します。**物理ターゲットワークロードが BIOS ブートモードを使用している場合、UEFI ブートモードを使用するソースワークロードで保存してフェールバックオプションを開始すると、フェールバックが失敗します。この問題は、ソースとターゲットのブートモードの不一致が原因で発生します。

回避策：ターゲットワークロードのブートモードをソースワークロードのブートモードに一致するように変更します。

- ◆ **948855 – 完全レプリケーションは、「Array index is out of range」というエラーで失敗します。**ファイルベースのレプリケーションの場合、バージョン 11.2 にアップグレードした後は、ワークロードに拡張パーティションと論理ドライブが存在すると、完全レプリケーションが失敗します。アップグレードした後の最初の完全レプリケーションと増分レプリケーションは影響を受けません。

回避策：拡張パーティションと論理ドライブがあるワークロードには、ブロックベースのレプリケーションを使用できます。

- ◆ **947597 – 11.2 へのアップグレード後、SMTP、電子メール通知、レプリケーションレポートの各設定が保持されない。**11.2 へのアップグレード後は、電子メール通知とレポートは使用できません。これらの機能の設定は、アップグレード時にリセットされました。

回避策：SMTP、電子メール通知、レポートの各設定を再設定します。『ユーザガイド』の「[イベントおよびレポートの自動電子メール通知の設定](#)」を参照してください。

- ◆ **947072 – バージョン 11.2 へのアップグレード後のクラスタとノードの DNS 解決に失敗すると、Windows クラスタのワークロードレプリケーションも失敗する。**バージョン 11.2 では、Windows クラスタのサポート方法が変わったため、PlateSpin Forge でクラスタとノードの IP アドレスの前方向検索および後方向検索を実行するには、完全な DNS 解決が必要になります。既存のクラスタワークロードの増分レプリケーションは、次のエラーで失敗します。

```
GatherMachineData service failed. (GatherMachineData サービスが失敗しました。)
The RPC server is unavailable (Exception from HRESULT: value) (RPC サーバが使用できません (HRESULT の例外 : 値))
```

失敗は、PlateSpin Forge Server でワークロードを更新 (再検出) する際に発生することもあります。たとえば、データのコピー操作が他の場所に反映されていないときに発生します。

回避策：PlateSpin Forge Server で、クラスタとクラスタノードの IP アドレスの DNS 前方向検索および DNS 後方向検索を解決できることを確認してください。DNS サーバをアップデートするか、Forge VM 上のローカル hosts ファイル (%systemroot%\system32\drivers\etc\hosts) をアップデートできます。

◆ **946124 – 中国語のデフォルトのクラスタ IP アドレス名が間違っている。**

MicrosoftClusterIPAddressNames リストで、簡体中国語および繁体中国語のクラスタ IP アドレスリソース名のデフォルト検索エン트리について、文字 IP の前後にスペース文字が入っています。中国語用に設定されている Windows クラスタノードのワークロードを追加しようとした場合に、クラスタ IP アドレスリソース名を検索しても MicrosoftClusterIPAddressNames リストのエントりに一致しません。PlateSpin Server はクラスタワークロードを検出できないため、ワークロードの追加アクションは失敗します。

回避策：PlateSpin 環境設定ページの MicrosoftClusterIPAddressNames リストで、簡体中国語および繁体中国語のクラスタ IP アドレスリソース名に対応する検索エントリの IP の前後にスペースを追加します。

たとえば、群集IP地址 を 群集 IP 地址 に変更します。

◆ **945571 – Windows 2012 ワークロード、ファイルベース転送：増分レプリケーションによってターゲットで chkdsk エラーが発生する。** Windows Server 2012 R2 で、Microsoft はディスクの自動クリーンアップ処理を導入しました。これは定期的に行われ、Windows が %systemroot%\WinSxS (Windows Side-by-Side) フォルダに保存するデータの量を減らそうとします。この処理により、使用されていないファイルが、同じ名前を持つより小さい圧縮バージョンに置き換えられる可能性があります。置き換えられたファイルの一部が実際にはハードリンクであった可能性が非常に高いと考えられます。この [Windows ディスクのクリーンアップ] ツールをインストールして使用していれば、Windows の旧バージョンでもこの処理が発生する可能性があります。

この Windows プロセスの実行後に PlateSpin が増分レプリケーションを実行した場合、レプリケーションの際に、ハードリンクから圧縮ファイルに変更されたファイルの状況が正確に処理されません。PlateSpin はターゲット VM 上のハードリンクを適切に削除できないため、これらのファイルはターゲット上でハードリンクされた状態のままになります。増分レプリケーション後、フェールオーバー VM で、これらのファイルに対して次のような chkdsk エラーが表示される場合があります。

Minor file name errors were detected in file 25467. (ファイル 25467 で軽微なファイル名エラーが検出されました。)

Index entry wucltux.dll.mui in index \$I30 of file 56447 is incorrect. (ファイル 56447 のインデックス \$I30 のインデックスエン트리 wucltux.dll.mui が間違っています。)
Index entry WUCLTU~1.MUI in index \$I30 of file 56447 is incorrect. (ファイル 56447 のインデックス \$I30 のインデックスエン트리 WUCLTU~1.MUI が間違っています。)

回避策：この問題が発生した場合、ワークロードの完全レプリケーションを実行してエラーを解決する必要があります。これにより、保護ターゲット VM に対してソースワークロードの完全なコピーが作成されます。

◆ **945090 – 複数の NIC が搭載されたターゲットで X2P フェールバック時に DNS 設定が記憶されない。** 複数の NIC が搭載されたワークロードの場合、DNS 設定はフェールバック中に自動的に設定されません。

回避策：フェールバックの完了後に、NIC に手動で DNS を設定する必要があります。

◆ **944932 – Windows Server 2003 R2 クラスタ：[フェールオーバーの準備] がフェールオーバー VM の NIC を設定しようとして停止する。** Windows Server 2003 R2 クラスタでフェールオーバーの準備オプションを使用すると、フェールオーバー VM の NIC の設定が完了するまでに 6 時間以上かかる可能性があります。このオプションは通常、定期保守期間中に、クラスタノードのフェールオーバーの実行前に環境を準備するために運用環境で使用されます。同じクラスタ上で、フェールオーバーのテストオプションまたはフェールオーバーオプションは、許容可能な時間内に問題なく実行されます。

この問題は Windows Server 2008 R2 クラスタおよび Windows Server 2012 R2 クラスタでは確認されていません。

回避策：Windows Server 2003 R2 クラスタでは、**フェールオーバーの準備オプション**を使用せず、フェールオーバーを直接実行してください。

- ◆ **944559 – 暗号化を有効にすると、ファイルベースの増分レプリケーションが完了しない。**ファイルベースのデータ転送の対象に設定されている Windows ワークロードの暗号化を有効にすると、増分レプリケーションの転送終了時に Windows レシーバがハングすることがあります。このハングは、暗号化プロセスによって、転送で読み込まれた最後のバイトが間違っただけでゼロ以外の値に設定された場合に発生します。これは転送するファイルがほかにもあり、ストリームからの読み込みを続行することを意味します。

回避策：レプリケーションデータの転送で暗号化を有効にする場合、Windows ワークロードに対してはブロックベースのデータ転送を使用できます。

- ◆ **943932 – 「DiscoverActiveNodeAsWindowsCluster = True」の場合、非アクティブノードがスタンドアロンワークロードとして追加されるべきではない。**PlateSpin Forge 11.2 では、PlateSpin 環境設定の DiscoverActiveNodeAsWindowsCluster = True パラメータを使用して、Windows クラスタのアクティブノードに基づいた検出を有効または無効にできます。検出時には、非アクティブノードがスタンドアロンワークロードとして表示されることがあります。ノードが保護されたクラスタの一部であることを示す警告は表示されません。

回避策：クラスタを保護するには、必ずアクティブノードを使用します。または、PlateSpin 環境設定の DiscoverActiveNodeAsWindowsCluster パラメータを設定することで、すべての Windows クラスタノードをスタンドアロンワークロードとして管理できます。

- ◆ **937476 – PlateSpin フェールバック設定の Windows Server 2008 R2 クラスタで間違った NIC がマップされる。**Windows Server 2008 R2 クラスタに対して PlateSpin のフェールオーバーおよびフェールバックが実行されると、Microsoft クラスタ管理ソフトウェアにより、ソース割り当てではなくデフォルトに基づいて NIC がマップされます。予想された設定とマッピングが一致しないため、フェールバックは完了しません。

回避策：IP 設定を予想されたマッピングに切り替えて、ターゲットを正常に設定する必要があります。これにより、フェールバックを正常に完了できるようになります。

- ◆ **897843 – MS Cluster のワークロードに対する再保護で、ワークロードの増分追加を実行するときにボリュームが正しくマップされない。**再保護中、Microsoft Cluster ワークロードを増分追加した後にワークロードボリュームがソースとターゲットの間で正しくマップされない場合があります。フェールバックマシン上の共有ストレージボリュームがオリジナルソース上の既存の共有ストレージボリュームと同一ではないからです。Windows **System** ボリュームは、ソースからターゲットに正しくマップされますが、Protect Web UI の [ワークロード環境設定] ページで、**Quorum** および **クラスタリソース** ボリュームマッピングが未マップと示されます。

回避策：再保護時に最初のレプリケーションに対するワークロードを構成するときに、ワークロードの **レプリケーション設定 > ボリュームマッピング** セクションで、共有ストレージボリュームに対する正しいボリューム・マッピングを手動で選択します。

- ◆ **863173 – Linux ワークロードの X2P フェールバックにより、X Server グラフィカルユーザインタフェースが失敗する。**ターゲットに複製され、フェールオーバーされて物理ターゲットにフェールバックされた、保護されている Linux ワークロードは、その X Server インタフェースの機能を失います。

回避策：VMware ツールのインストール時にフェールオーバーした VM が再設定されることによって、この問題が発生します。これを修正するには、次のコマンドを使用して、ファイル名に BeforeVMwareToolsInstall という文字列を持つファイルを検索します。

```
find / -iname '*BeforeVMwareToolsInstall'
```


当該ファイルをすべて確認した後で、これらのファイルを元の場所に戻し、ワークロードを再起動して、ワークロードの X Server インタフェースを修正してください。

- ◆ **860917 – 増分レプリケーション用の OES ワークロードを準備できない。** VMware Virtual Infrastructure Client (VIC) で VM を作成するか既存の VM を変更し、ゲストオペレーティングシステムとして *Novell Enterprise Server* を選択する場合、VM が (不明の OS タイプとして) PlateSpin ブラウザに表示されますが、Protect Web UI の [増分レプリケーションの準備] ページの仮想マシンドロップダウンリストに一覧表示されません。

回避策: この VM を VIC の X2V レプリケーションのターゲットとして使用できるようにするには、オペレーティングシステムのタイプを *SUSE Linux Enterprise 11 (64 ビット)* に変更して、コンテナを更新します。VM が Protect Web UI に一覧表示されます。

- ◆ **698611 – 特定の状況下でのフルクラスタレプリケーションの障害。** Windows Server 2008 R2 クラスタのノードがフリップすると、それに続く完全レプリケーションまたは最初の完全同期レプリケーションが次のエラーで失敗します。

Object reference not set to an instance of an object. (オブジェクト参照がオブジェクトのインスタンスに設定されていません。)

この問題は、**Sync to an existing VM (既存の VM への同期)** の方法で設定されたコントラクトでのみ発生します。

回避策: ナレッジベースの記事 7008771 (<https://www.netiq.com/support/kb/doc.php?id=7008771>) を参照してください。

- ◆ **ワークロードの初期レプリケーション前に Windows クラスタサービスが他のノードにフェールオーバーした場合、レプリケーションに失敗する:** Windows クラスタのアクティブノードをワークロードとして追加し、PlateSpin が初期レプリケーションを実行する前にそのノードがフリップした場合、レプリケーションに失敗します。

回避策: クラスタをフリップして、コントラクトの設定時にアクティブであったノードに戻し、その後、初期レプリケーションを実行します。または、ワークロードを削除してから、現在のアクティブノードを追加することもできます。

- ◆ **611105 – アップグレード後に保護契約が見当たらない。** Forge アプライアンスをバージョン 3 にアップグレードすると、[Ready for Failback (フェールバックの準備ができました)] または [Ready for Reprotect (再保護の準備ができました)] の状態にあるワークロードを持つ保護契約がユーザインタフェース上で見当たらない可能性があります。この問題は、次の修正の際に考慮されます。

この問題は、フェールバック用に準備されている契約、およびまだ再保護が完了していない契約にのみ影響します。フルサイクル (フェールオーバー > フェールバック > 再保護 > アイドル) を完了した契約では、この問題は発生しません。

4 連絡先情報

弊社の目標は、お客様のニーズを満たすマニュアルの提供です。改良点に関するご意見は、Documentation-Feedback@netiq.com まで電子メールでお寄せください。貴重なご意見をぜひお寄せください。

詳細な連絡先情報については、**サポート連絡先情報 Web サイト** (<http://www.netiq.com/support/process.asp#phone>) を参照してください。

一般的な会社情報と製品情報については、**NetIQ Corporate の Web サイト** (<http://www.netiq.com/>) を参照してください。

他のユーザや NetIQ のエキスパートとやり取りするには、弊社の [コミュニティ \(https://www.netiq.com/communities/\)](https://www.netiq.com/communities/) のアクティブなメンバーになってください。NetIQ オンラインコミュニティでは、製品情報、有益なリソースへの役立つリンク、ブログ、およびソーシャルメディアチャンネルが用意されています。

5 保証と著作権

本書および本書に記載されているソフトウェアには、使用許諾契約または守秘契約が適用され、これらの条項の下に提供されます。上記ライセンス契約または守秘契約に明示されている場合を除き、NetIQ 社は、本書および本書に記載されているソフトウェアを「現状のまま」提供するものとし、明示的、黙示的を問わず、商品性または特定目的への適合性に対する黙示的な保証を含め、いかなる保証も行いません。州によっては、明示的、黙示的を問わず、特定の取引に関する保証の否認が認められていないため、この記述が適用されない場合もあります。

明確にするために、すべてのモジュール、アダプタ、またはそれに類する要素（「モジュール」）は、そのモジュールが関連または相互作用する NetIQ 製品またはソフトウェアの当該バージョンのエンドユーザライセンス契約の条項と条件に基づいてライセンスが供与されます。また、モジュールを接続、複製、または使用することで、これらの条項に従うことになります。エンドユーザ使用許諾契約の条項に同意しない場合、モジュールを使用、接続または複製する権利はなく、モジュールのすべての複製を破棄していただく必要があります。詳細については NetIQ にお問い合わせください。

本書および本書に記載されているソフトウェアは、法律によって認められた場合を除き、NetIQ 社が書面をもって事前に許可しない限り、貸出、販売、譲渡することはできません。上記の使用許諾契約または守秘契約に明示されていない限り、NetIQ 社の書面による事前の同意がない場合は、本書および本書に記載されているソフトウェアのいかなる部分も、電子的、物理的、またはその他の方式を問わず、いかなる形式や手段においても再現したり、情報取得システムに保存または転送することは禁じられています。本書に記載されている会社名、個人名、データは引用を目的として使用されており、実際の会社、個人、およびデータを示していないことがあります。

本書は技術的な誤りおよび誤植を含むことがあります。本書の情報は定期的に変更されます。定期的な変更は、本書の新版に組み込まれることがあります。NetIQ 社は、本書に記載されているソフトウェアに対して、随時改良または変更を行うことがあります。

米国政府の制限付き権利：ソフトウェアおよび文書が、米国政府または米国政府の元請人または下請人（階層を問わず）によって直接または間接的に取得される場合は、48 C.F.R. 227.7202-4 (for Department of Defense (DOD) acquisitions) および 48 C.F.R. 2.101 および 12.212 (for non-DOD acquisitions) に基づき、ソフトウェアまたは文書の使用、修正、再生、リリース、実行、表示、開示などに関する政府の権利は、このライセンス契約に記載されている商用ライセンスの権利および制限に全面的に従うものとします。

© 2015 NetIQ Corporation. All Rights Reserved.

NetIQ の商標については、<http://www.netiq.com/company/legal/> (<http://www.netiq.com/company/legal/>) を参照してください。

ライセンスの許諾

PlateSpin Forge 11 以降のバージョン用に購入したライセンスを Platespin Forge 3.3 以前のバージョン用に使用することはできません。

サードパーティのソフトウェア

PlateSpin Forge で使用されているサードパーティのソフトウェアの詳細については、「[PlateSpin におけるサードパーティのライセンス使用法と著作権情報 \(https://www.netiq.com/documentation/platespin_licensing/platespin_licensing_qs/data/platespin_licensing_qs.html\)](https://www.netiq.com/documentation/platespin_licensing/platespin_licensing_qs/data/platespin_licensing_qs.html)」のページを参照してください。